

五日市まちづくり協議会

駅前ワーキンググループ協議報告書

2023年5月17日

五日市まちづくり協議会第2回本会議承認

目次

1. 駅前市有地、整備に関する具体的提案
2. 各参加メンバー意見書の要約
3. 各参加メンバーからの自主的な取組みについての報告
4. ワーキンググループ会議記録
5. ワーキンググループ参加事業者名簿

1. 駅前市有地、整備に関する具体的提案

五日市まちづくり協議会 駅前ワーキンググループからの駅前市有地整備に関する意見を集約し、以下6か条に要旨をまとめました。

一. 景観への配慮

建物を新築する際には、武蔵五日市駅前の印象をかたちづくってきた山山に囲まれながら広い空を感じられる開放感を阻害することのない高さとするのが望ましい。また建物外観には多摩産材を採用するなど、地域固有の材料を使用し自然景観に馴染ませる意匠とすることで、長年の来街愛好者や地域住民に愛されてきた景観を守ることが望ましい。

一. まちなかへの配慮

開業者が徐々に増えつつある再生中の商店街エリアへの回遊、駅からの人の流れを作れるような相乗効果が生まれるよう、駅前に設置される機能は最大限の配慮をした計画、運用とすることが望ましい。

一. アウトドアを愛好する来街者に対する利便性の拡充

早朝や夜間など、有人店舗で網羅しにくいサービスがカバーできるような機能や設備を設置することが望ましい。

一. 自然体験などの地域観光がフックとなる移住促進拠点の設置

移住検討を目的とする来街者の受け入れができるレセプションや、移動や体験中の託児をサポートできる有料施設などを設置する。こうした拠点は、地域内のファミリー層も利用することが出来、まちなかでの大人の滞在時間を増やすことにもつなげられることが望ましい。

一. 観光シーズンのための主力駐車場についての能力を維持または増強

現状の駐車場について、地域で日常利用するユーザーや、観光のリピーターにも配慮し、できるだけ駐車台数を確保しながら、観光シーズンの交通便利性を著しく落とさない工夫が必要である。

一. 地域の姿勢やイメージを形成するためのオープンスペース

面積は限られるが、駅前周辺に集いの場として市民や来街者が憩え、イベント会場やこどもの遊び場として機能できるようなスペースの整備ができると尚良い。

2. ワーキンググループ各参加メンバーからの個別意見

※6 か条にまとめられなかった意見も含めて掲載しております。

①敷地内計画に関する具体的意見
<ハード面>
<p>・コインパーキング施設は今後も必要=ここを目的とした施設ではなく、この地域に観光やレジャーへ来る方々が「この地域は便利」となりうるような上物があることでエリアそのものにも魅力が生まれる。ひとまずここに立ち寄り、「さあどこに行こうか」となるような場所。道の駅（完結型）よりサービスエリア（ハブ、立ち寄り、起点）的要素のほうが重要。お土産などが揃うアンテナショップ的要素、市町村を集約できる観光案内所も設置しては。</p>
<p>・地域資源を生かした施設=秋川流域の地域資源は河川・森林・自然公園・農地等に代表される「豊かな自然」と観光が大きな強み。「東京=大都会」のイメージを覆す【東京なのに】美しい大自然+【東京なのに】田舎というギャップは秋川流域や西多摩の強みであり、人々が訪れる魅力だと思う。秋川流域の玄関口である武蔵五日市駅前の施設であれば、コンクリート造の高層ビルなどの建物よりも、地域の山から産まれる「多摩産材」の良い品をふんだんに使用した建物や、大久野の浜中材木店内（有）東京ペレットで扱う東京産の木質燃料を使用した「ペレットストーブ」を導入した暖房設備を備えた施設など、秋川流域の地域資源を活用し、かつ、地域の自然環境と良く調和する意匠の建物の方が、観光交流拠点の印象や非日常感を訴求できて良いのではないか。</p>
<p>・駐車場の整備(地下化・立体駐車場、一時待機所(送迎等)、管理方法含む)。観光名所となる、トイレの整備(バリアフリー、多目的トイレ必須)。物産販売所の整備(テナント、キッチンカーエリア、イベント広場等)、駅直結の通路整備(バリアフリー、アーケード等)。風雨に影響されない休憩場所、自動販売機、コインロッカー、脱衣所の整備。人が来ることは、地域性を生かした物が必要となる。</p>
<p>・武蔵五日市駅は五日市線の終点駅であり檜原や日の出町などには、低山登山や川遊びなどで都心などから足繁く通う観光客の利用も多く、五日市観光などの玄関口としての役割を担っている。五日市街道の拡幅や圏央道開通などに伴い、近年、関東近県などから自家用車を利用したレジャー客が訪れる春～秋の観光シーズンは、駅前は大変な賑わいと混雑となる。観光繁忙期やイベント時、当該駐車場前は特に駐車待ちの車両が列をなすことも少なくない。また、通勤など利用される固定車両は周辺の月極駐車場(約 5～8 千円/月)に対し(最低 550 円/日)と比較的高額であることを考慮しても、毎日駐車場全体の5分の1程度は固定の利用があるようだ。これは、平日と休日の料金設定を見直すことにより平日利用者を増やすことができないか。まずは、車両の受け皿となる駐車場台数は「増加」を目指し、減少させない方が良いと思う。</p>
<p>・新規開業者が入居しやすいチャレンジショップ的なスペースを設置してはどうか。</p>

<p><ソフト面></p>
<p>・各種機能を個別に独立した建築物：駅前の対象敷地は近隣商業地域にあり、様々な業種・用途を目的とした建物の利用が可能なので、様々な業態の事業がしやすいように細かく区分や、独立が可能な施設であると飲食店や小売店・地域の活動体験など、それぞれの事業者がターゲット層に対して自由に区画内・店内・営業時間を決定できるので良いのではないか。</p>
<p>・駐車場を兼ねた広場＝秋川流域の玄関口の駅前駐車場としての機能は必要。平日通勤での駐車場利用者と休日観光での利用者の需要を満たしつつ、「マルシェ」など休日のイベントや催事の広場としても兼用できるような規模や仕様であると尚良い。</p>
<p>・地域人口の減少を想定した整備＝少子超高齢化社会の昨今、全国的に日本人人口が減少し、秋川流域でも地域人口が減少すると予想される。全体的な人口減少から、絶対的な来訪者数の減少が生じる可能性が高いと考えると、施設の規模についても小規模なものから少しずつ進めた方が良いのではないか。また、日本人人口の減少に伴い、来訪ターゲットが国内需要から外国人（インバウンド需要）にシフトされると想定すると、「日本的で和風で伝統的な特徴を持った」施設（かつて檜原街道沿いに軒を連ねた見世蔵や長屋のような意匠の建物）の方が、観光地エリアとして来訪需要が高まるのではないか。</p>
<p>・観光情報の案内(秋川流域3市町村)。イベント情報の発信。名産品の開発及び販売。市内駐車場の空き状況の発信。</p>

<p>②駅前を起点とする五日市エリア全体の市街地の活性化、秋川溪谷の観光経済の強化につながる地域連携事業（ソフト事業）についての提案</p>
<p>・観光者に特化した「るのバス」運行。停留所間が遠すぎず、観光地、施設のそばやその前に設置する。観光地が点在してしまっていることのネガを補う目的。観光案内所の位置（意見にも出たように分かりづらい、活用しづらい、案内しづらい）</p>
<p>・地域の暮らし体験＝秋川流域各地で様々な地域資源を生かした体験を駅前から発信できると良いと思う。農業体験や林業・炭焼き体験・魚釣り・川遊び体験など、自然や地域資源を生かした活動を目的に来訪者や活動人口が増えれば、移住などのきっかけにつながり、結果地域が活性化するかもしれない。地元で当たり前に行っていることが他所の人にとって憧れだったりすることがある。</p>
<p>・特産品マルシェ＝農産物等、地場の生産物を気軽に購入できるような場所があっても良いのではないか。</p>
<p>・バスの1日乗車券+飲食店等で使用できる割引チケットの発行。各事業所の物産品(名物)の開発及び、販売。市内バスツアーの開催。観光施設(エリア)の充実化。</p>
<p>・公共交通各社（鉄道、バス、タクシー）とハード整備に頼らない連携事業も積極的に推進していくべきだと思う。</p>

③地域住民からの要望に対応する駅前整備に関する提案

・住民の為のお迎え専用駐車スペースの造成。現状、ロータリーは広いが運用・利用面で使い勝手が良くないように感じる。

・駅前の渋滞を無くせる方法の考案が必要ではないか。

・送迎車の駐車スペースをつくるような駅前ロータリーの改修が必要ではないか。またバス、タクシー等の専用レーンを整備するなど。

・駅前も広いので、市民、観光客、事業所が使いやすく改修してもらいたい。利用者が多くなるので、事故防止の対策を講じてもらいたい。

④長期的に時間を要する駅前整備に関する提案

・駅の北口も有効活用した駅全体としての運用と整備の見直し。目的の明確化、地域観光の玄関口としての駅南口のアピール。

・二階建て駐車場、着替えが出来るロッカーとスペース、大きな綺麗なトイレ。ドーム式屋根、キッチンカーを出せるように。公園と広場。

・駐車場機能=平日通勤での駐車場利用者の需要は継続して満たす必要があるが、高齢者の増加及び労働力人口が減少に推移してゆく予想をみると、将来的に規模を縮小または、別の用途に転用が効くような可変性を持たせる必要もあると思う。

・公園機能=まちなかで気軽に子供たちを遊ばせることができる公園が少ないという声を聞くので、地域住民が気軽に利用できるような公園・広場としての機能を持たせるのはどうか。

・駅からパーベキュー場まで直結の人道橋を作り、秋川の景色が綺麗に見える、橋を作って欲しい。(SNS映えする)

・移住促進が進めば、数年後には駅前を利用する人が多くなる。活気あふれる商店街を復活できるような駅前整備が必要となる。地域住民に理解を求め、協力してもらう。

・景観=武蔵五日市駅は降り立ったときから、ゆったりとした空気や開放感があると聞きます。それらを構成する要素は、変わりゆく車窓の風景にはじまり、五日市駅前やロータリーや当該駐車場の視覚的な開放感であり、周辺の低屈な建物による見上げた空の広さや近望の山の緑かもしれない。未来にいま遺すことができるとすれば、(近代的な)複層化した地上物ではないと考える。例えば、当該駐車場は立体駐車場や複層の商業施設では他の駅前と変わらなくなってしまうばかりか、景観は遺せない。いっそのこと駐車場は思い切って「地下複層構造」にしてはどうか。同様に、当該駐車場から駅前ロータリー・バス営業所方向へ地下伸長することができれば結果として景観の有効活用にもつながる。

⑤駅前整備を起点とする新しい居住者づくりに関する提案
・市内に駐車場がある場所や公園を増やす。コインパーキングを行政で運用し、新規出店者は駐車サービス券を活用し、誰でも使える駐車場があるといい(市民にはサービス券)。
・公共交通機関の充実。本数が少ないのだから、電車とバスの乗り継ぎなども包括した地域路線図の作成。
・あきる野市での暮らしを体験できる施設などに誘致できると良いのではないか。また、そういった体験を提供できる事業の誘致は良いと思う。
・空き家、空き地の確保。託児所(保育所)の充実。空き家情報の提供。移住相談(体験施設の建設)。
・あきる野市広報に移住に関する情報を掲載し、空き家等については宅地建物取引業者、市民に協力(理解)してもらう。
・「五日市が好きだ」というタイプの住民が増えるような活動をすることが、他自治体との差別化に繋がり望ましい。この地域の強みを活かし独自の魅力的なまちづくりを行い、そこに共感しつつ来てくれる人が住むような構造を目指すことが必要。

⑥その他の提案
・五日市駅前～戸倉地区までの道路を時間帯で中央線移動式3車線道路にする。観光ハイシーズンには午前中上り渋滞、午後下り渋滞が慢性的に発生。裏道も高速で走る自動車の危険性の回避目的として。それに併せ路上駐車対策として、裏道に駐車場の充実。
・「少子超高齢化」による絶対的な人口減少による影響を懸念している。20年後の2043年には五日市小学校区での居住人口の4割が高齢者となり、かつ居住人口も今の4分の3(約9,000人)にまで減少するような推計が出ている。(※2013年の地域人口約12,000人)仮に推計通りに地域人口が推移したとすると、地域の高齢者が約3,600人、生産年齢人口は約4,500人。全国的に人口が減少し、地域人口も減っていく状況になれば、当然施設の利用率も減少することが想定される。しかし、うまく地域の魅力を発信し、秋川流域のファンを獲得できればその逆も考えられる。悪化した際には規模を縮小できるように、また、うまくいったときには規模を拡大できるように、将来に向けて可変性のあるような施設づくりや整備計画が望ましいのではないだろうか。採算のとれぬ施設を建てるだけが目的のいわゆる「箱物行政」にならないよう慎重に検討を進めてほしいと思う。
・都心へ通勤通学できる利便性を向上させるため、公共交通機関の充実をお願いしたい。武蔵五日市駅周辺にはマイクロバスを止められる駐車場がないため、大型車が止められる駐車場(用地)を確保する必要があるのでは。

3. 各参加メンバーからの自主的な取組みについての報告

今回の協議会、ワーキンググループへの参加を通じて、地域活性化に向けた活発なディスカッションが出来たことを踏まえ、民間ベースですぐに取り組んでいきたい自発的な取り組み意見についても以下のように取りまとめ、報告させていただきます。

<p>五市マルシェ実行委員会</p>	<p>現在、定期的に駅前で開催している五市マルシェについては、これから開業を検討している事業者にも参加門戸を開き、チャレンジブースを設置することは、すぐに実行に移せると考えている。敷地内に新規開業者が借りられるチャレンジショップスペースを設置するのはどうか、という提案があり、着想した。また市街地との相乗効果を目指す議論の中から、マルシェを五日市ひろばと回遊できるようなイベント形態を検討することもできるのではないかと考えた。</p>
<p>JR 東日本旅客鉄道 (拝島駅長)</p>	<p>地域で実施されているイベント情報を積極的に吸収する機会をいただけたと考えている。駅でのポスター掲出や駅構内放送、青梅・五日市線の車内放送などのPR網を生かし、地域のみなさまと連携して一緒に盛り上げる取り組みなどについて積極的に検討していきたい。具体的には、五日市線沿線の魅力をPRすることなどを地域のみなさまと一緒にになって取り組めるチームを社内にも結成したいと考えている。</p>
<p>五日市活性化戦略委員会</p>	<p>現在、地域の有志委員と取り組んでいる五日市まちづくり通信事業、空き店舗活用事業、雛めぐり事業、で得られた事業報告などを協議会にも共有する。また、五日市ひろば活用事業についても、地域の若手を発案者とする新しいイベントの企画発信を検討しているが、こちらも協議会運営のなかで調査を進めていくワーキンググループと連動できるように進めていく。</p>

第一回 五日市まちづくり協議会駅前ワーキンググループ 会議

2023/01/20

次 第

1. 開会挨拶
2. 駅前ワーキンググループの参加希望者リスト紹介
3. 本日の参加者 自己紹介
4. 本日の進行説明
5. 駅前整備に関する経緯の説明
6. 参加者からの質問
7. 武蔵五日市駅前ビジネスに関する参加者からの情報共有
8. 駅前ビジネスに関する、非協議会員事業者のヒアリング内容紹介
9. 意見交換
10. 今後の会議スケジュールについて
 - 第二回 2月22日 14:00～（五日市出張所） 意見書作成のための具体協議
 - 第三回 3月22日 14:00～（五日市出張所） 作成した意見書の確認協議
11. 閉会挨拶

第二回 五日市まちづくり協議会駅前ワーキンググループ会議

2023/02/22

次 第

1. 開会挨拶
2. 市長の施政方針：駅前プロジェクトに関する説明
3. 五日市エリアのポテンシャル整理、本WGの目指すところ
4. 駅前の模型披露
5. 意見交換
6. 瀬音の湯再整備にかかる状況報告
7. 報告書の方向性発表
 - ①五日市全域を活性化する地元からの原則的なビジョンを提案
 - ②今回の敷地＝駅前整備に関する具体的提案
 - ③駅前に縛られない、五日市全域の観光やまちづくりへの方向性の提案
 - ④添付資料として、これまでの会議議事録や、記入用紙を提出
→これらをまとめ3/22の第三回会議で確認（事前に資料送付）
8. 今後の会議スケジュールについて
第三回 3月22日 14:00～（五日市出張所） 作成した意見書の確認協議
9. 閉会挨拶

第三回 五日市まちづくり協議会駅前ワーキンググループ会議

2023/03/22

次 第

1. 開会挨拶
2. 市へ提出する当該 WG 意見書の確認と協議
3. その他共有事項など
4. 今後の会議スケジュールについて
ワーキンググループ会議は終了
協議会本会議 第二回 5月17日 10:00～（五日市出張所）
 - ・ 作成した意見書の披露
5. 閉会挨拶

五日市まちづくり協議会 駅前WG会議 出席者名簿

NO	所属	構成員
1	五日市商和会	
2	一般社団法人あきる野市観光協会	
3	一般社団法人あきる野市観光協会	
4	株式会社ごえん分校	
5	松村ダスト有限公司	
6	株式会社黒茶屋	
7	五日市活性化戦略委員会	
8	ヨルイチ実行委員会	
9	五市マルシェ実行委員会	
10	あきる野青年会議所	
11	西武信用金庫	
12	東日本旅客鉄道株式会社	
13	東日本旅客鉄道株式会社	
14	西東京バス株式会社	
15	横川観光株式会社	
16	たから不動産事務所	
17	大多摩開発株式会社	